

# ～ IC カードはたとえるなら、**バス代の貯金箱**です～ IC カード導入時の取り組み事例から見る 新技術・サービスの受容性向上に向けたヒント

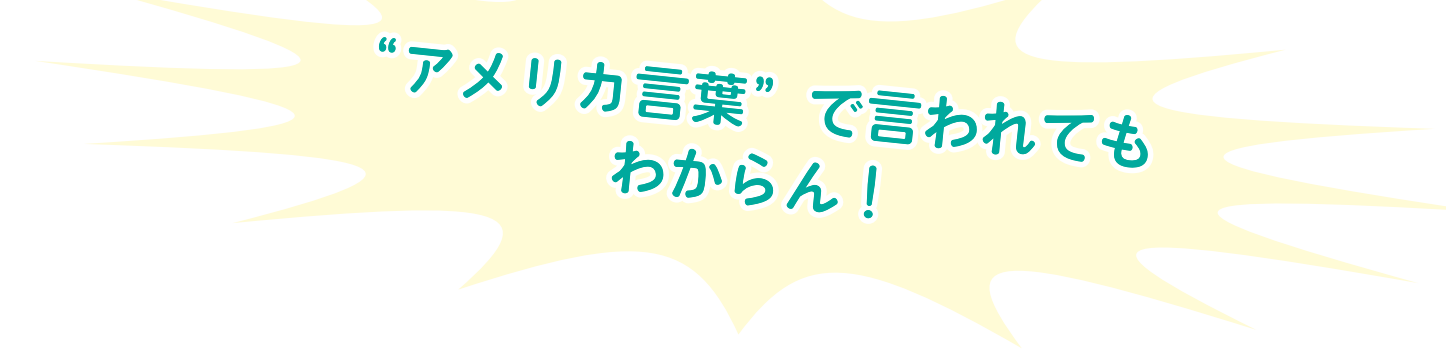


大野悠貴（モビリティプロモーション／弘前大学） 加藤尚徳（弘南バス株式会社） 菊池武史（弘南バス株式会社） 藤森良太（弘南バス株式会社） 高島亮太（株式会社玄）

## 背景・目的

津軽地方の公共交通は全域で IC カード非対応エリア（路線バスは、弘南バス 1 社でほぼカバー）

IC カード自体を知らない人も多く、「デポジット」や「チャージ」といった特有の概念・動作も含めて、IC カードを理解し、受け入れてもらうことが必要



**「デポジット」や「チャージ」といった新技術・サービス特有の概念・動作を、どのように伝えるか？**

## 取り組み内容

**コンセプト・・・「交通事業者の言い訳資料にしない」**

### パンフレット

特有の概念・動作の説明・言い換え ～子どももお年寄りもわかるように～



最初の 1 ページ目に、「IC カードってなに？」を掲載 IC カードそのものを説明する事例は初？

「バス代の貯金箱」にたとえ、「デポジット」や「チャージ」の概念をビジュアル含めてわかりやすく説明



「タッチ」は読取エラーになる原因であることが他社導入事例から示唆されていたので、「かざす」という表現に言い換え 弘南バスは「前乗り・前降り」なので懸念されたトラブルはあまりなかった

稼働前の実機やテスト機材を用いて、可能な限り実際と同じ状況を再現

### 情報の取捨選択

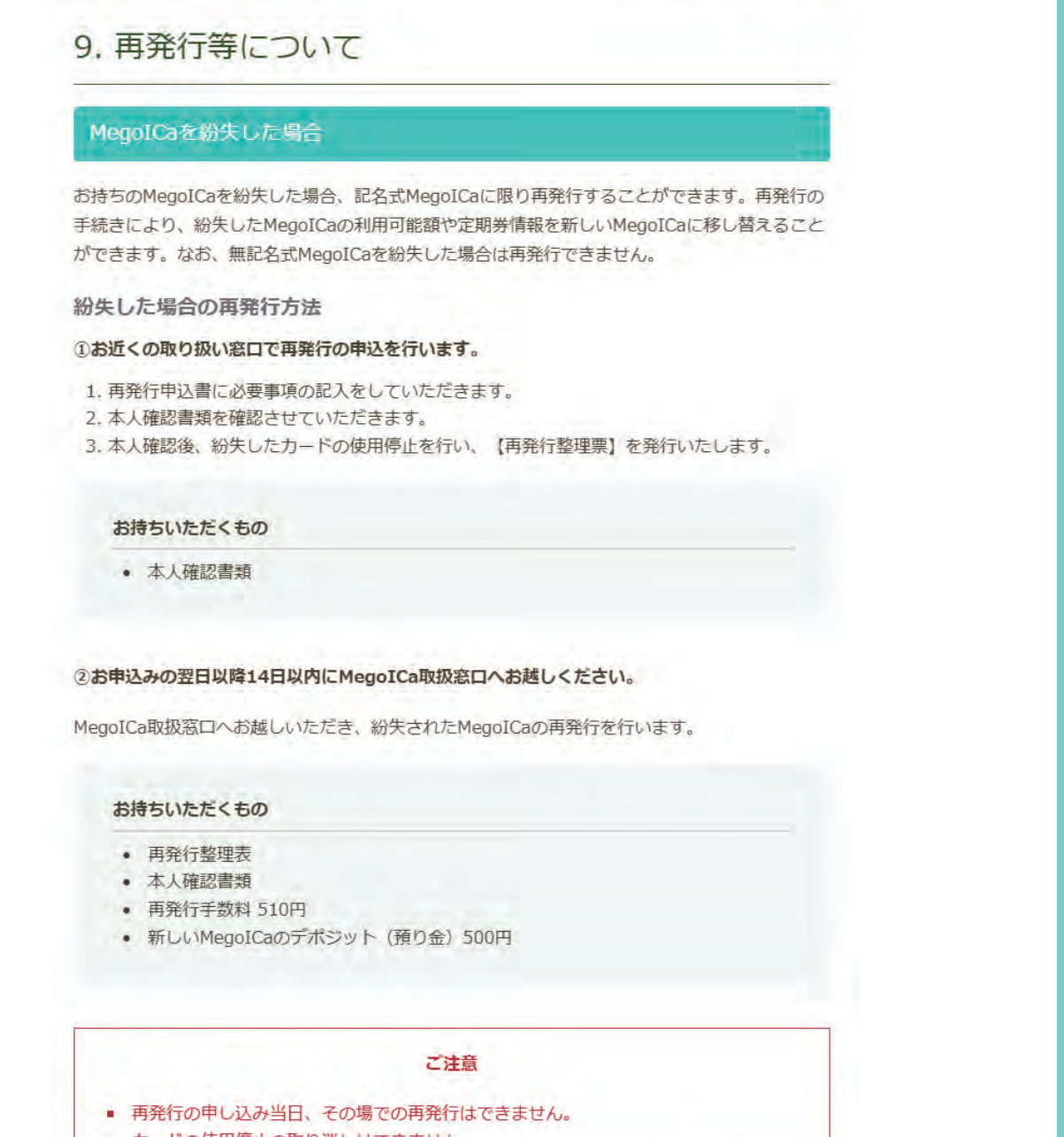


文字は少なく、写真は多く

再発行手続きや Q&A、約款など “その時” にならないと参照しないものはホームページに記載

飲料自販機で残額確認ができることなど、**利用者が気になりやすい点を**ミニコーナーで紹介

パンフレットとホームページの 様み分け



### 動画

学校の教材にも使えるように  
・ MegolCa の使い方紹介を通して、**IC カードとお金・チャージの関係**を理解してもらうことに主眼  
・ 高齢者向けの講座でも活用



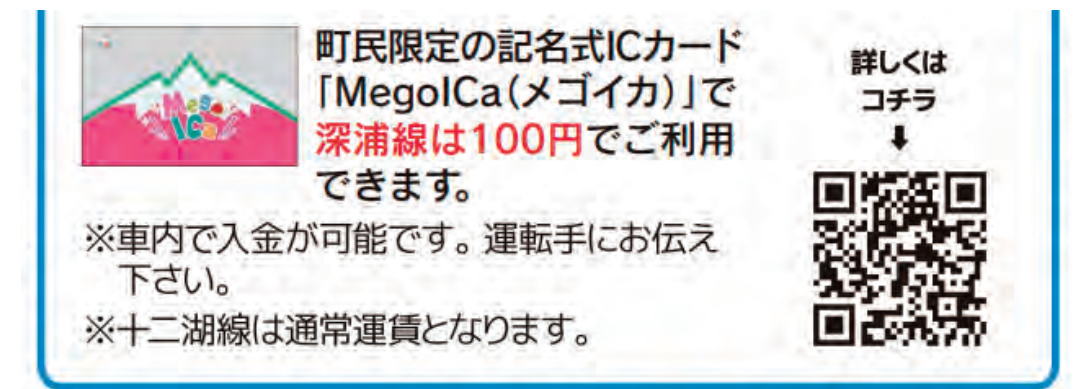
実際の活用シーン紹介で利用イメージを具体化

・ 購入方法が複雑な「乗り放題パス」について、購入から実際の利用まで Vlog 風に一連の流れで紹介  
・ 観光利用促進にも寄与



### 沿線自治体や企業との連携

新サービスの導入  
・ 深浦町では町民限定で IC 運賃 100 円サービスを新たに開始



### 体験会や販売ブースの設置

・ 民生委員等、地域のコアとなる住民に向けた出前講座（自治体）  
・ スーパーでの販売ブース（企業）

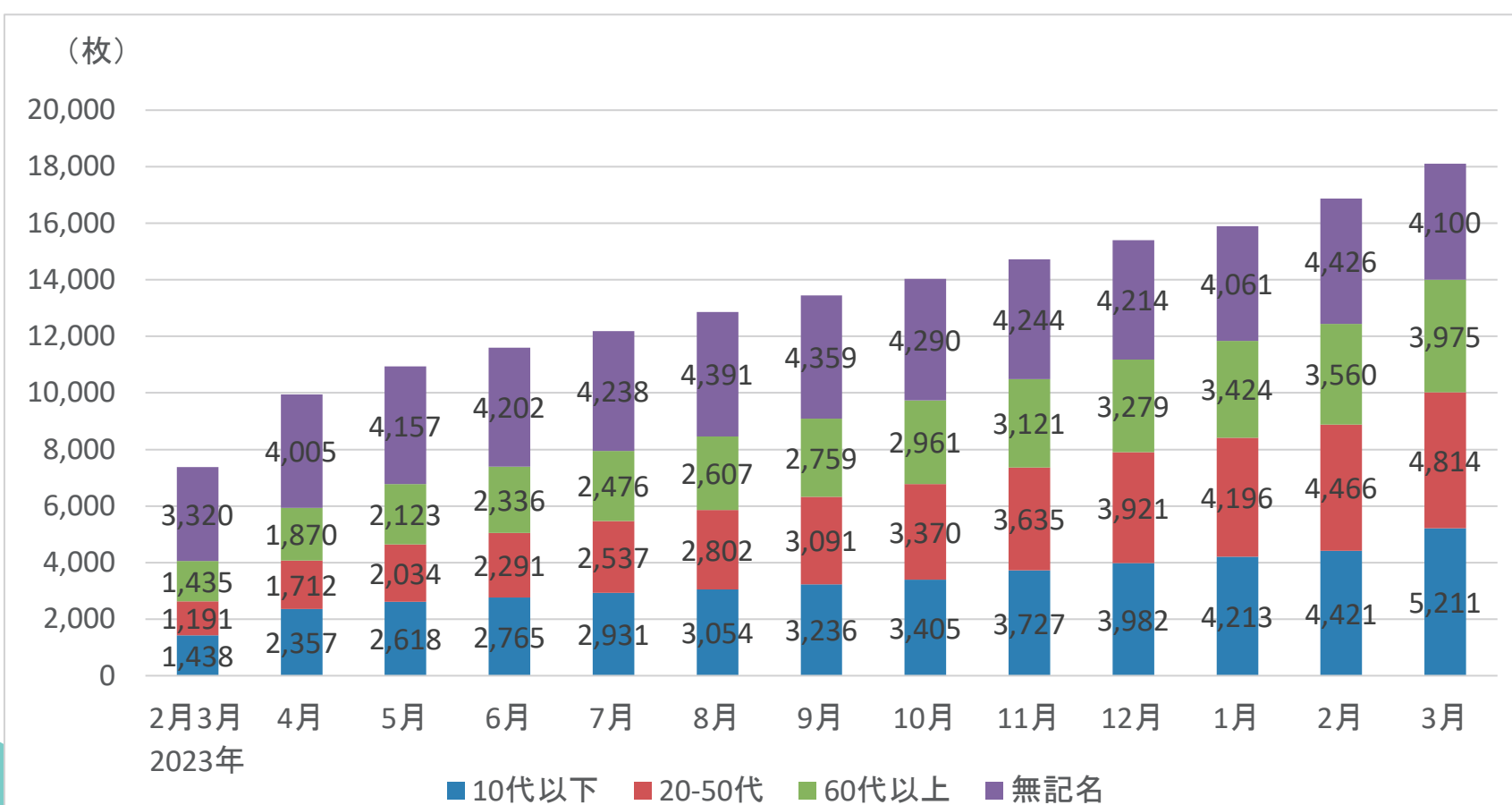


### JR による PR 施策

・ 2023 年 5 月の奥羽本線一部 Suica 対応との相乗効果を図る



## 効果



- ・ 累計発行枚数は増加傾向（2024 年 3 月末現在で約 18,000 枚）
- ・ 10 代以下の学生層、20-50 代の現役層、60 代以上の高齢層、無記名カードのシェアはいずれも 2～3 割（左グラフ）
- ・ 記名式（定期含）カードの年代別発行枚数は、10 代に次いで 70 代、20 代、50 代、80 代…の順で、幅広い年齢層がご利用
- ・ SNS 等で、**パンフレットが「わかりやすい」**といったお声もいただいた

